

学校だより

生き抜く力

6月号

地域と連携し、「今を精いっぱい
生きる」生徒を育む学校

狭山市立柏原中学校

TEL 2954-5073

校長 田中茂樹

おまけ

冒頭から『おまけ』とは？と思われた方もおられるでしょう。5月の連休明けの7日、学校朝会で『だまし絵』（見方によって2通りの絵が描かれているもの）を見せ、何に見えるかを聞き、もう一方も見えるかを聞いてみました。人間は『思い込み』をすると他方が見えなくなり、身近な人権侵害等にかかわることも『思い込み』で起きていることがあるので『思い直し』が大切ですと、『人権学習期間』に先立って話をしました。



3年生の中には、「学年の友だちと9年間一緒に生活しているので、あの人はこういう人だと決めつけていたところもある。その点の『思い直し』をしてみたい、いいところを新たに発見したい」など、メッセージをくれた生徒がいました。

そこで、人間関係を円滑に、潤いのあるものにするにはどんなことがあるのだろう、と考えたのが今回の「おまけ」です。

では、本題。ある会合で『おまけ』という言葉が久々に聞きました。次の日、早速辞書を引いてみたら、なんと、『御負け』とあったのです。意味は、①値引きしたり、品物を添えたりすること。また、その品。②その上に何か付け加えること。『——の話』、とありました。『負け』なんだあ、この字をあてるんだ。このままにして、知っていたことにしようと思いましたが、どうも『負け』の二文字が気になり、そのまましておけばいいのに、私も好事家（ものずきのこと）、また、辞書で引いてみました。すると、①負けること。

敗北。②値段を安くすること。また、その代わりの景品。おまけ。とありました。そういえば、「これ、まけてよ。」と小さいときから使っていたのを思い出しました。

『おまけ』というと、我々の年代は『グリコのおまけ』を思い出すのではないのでしょうか。今の子どもが見るとすぐ捨てられそうなつくりでしたが、自動車、船、飛行機、いろいろなものが入っていました。これらを集め、同じものは交換する。人の家の縁側や公園（そんな立派なものはないが）、広場で遊んだのを思い出します。今思うと、結構熱中して遊んでいました。年月が過ぎ、たまたま開けた箱の中に以前集めた「おまけ」が入っていて、懐かしがって遊んだこともありました。その多さに驚くとともに、「おまけ」につられグリコキャラメルをよく買ったものだ、と改めて驚いたものでした。（裏面へ）

6月の主な行事予定

1 (土) 宿泊学習(龍の森 わくわくビレッジ)

【2年】

土曜寺子屋[9:00~11:00]

3 (月) 2年振替休日

4 (火) 学校朝会

5 (水) 集金日

6 (木) 歯科健診【全校】

7 (金) 交通安全教室、生徒会専門委員会、県通信陸上大会

8 (土) 土曜授業日

生徒総会【2, 3校時】

英語検定、県通信陸上大会

土曜寺子屋[14:00~16:00]

11 (火) 生徒朝会、眼科健診【全校】

12 (水) 部活あり、一斉防犯パトロール

13 (木) 学校総合体育大会狭山市予選会

14 (金) 学校総合体育大会狭山市予選会

15 (土) 土曜寺子屋[9:00~11:00]

17 (月) 耳鼻科健診【全校】

18 (火) 学年朝会、道徳授業研修会

20 (木) 家庭教育学級開級式

22 (土) 土曜寺子屋[9:00~11:00]

25 (火) テスト前諸活動停止期間

修学旅行【3年】

26 (水) 修学旅行【3年】

27 (木) 修学旅行【3年】、小中挨拶運動

28 (金) 小中挨拶運動

29 (土) 土曜寺子屋[9:00~11:00]

※予定ですので変更になる場合がありますので、



さて、朝会などで『あいさつ』について話をしたり、廊下などでも「あいさつをしよう」と呼びかけることがあります。私は、『あいさつ』というものは、人間関係をスムーズにする潤滑油のようなもの、待ってするものではなく自分からするものと考えています。定期テスト期間中は、小中連携教育の一環として互いに『あいさつ』運動を行っています。門のところで、児童会のメンバーが中学生にあいさつをし、本校の生徒会本部役員、生活安全委員、学級委員のメンバーが小学校で児童にあいさつをしています。

私が赴任した2年前に比べ、あいさつする生徒が着実に増えていると思います。これは学校評議員の方々からも言われることなので、成果が少しずつではありますが出ているのかなと思っています。

そこで、『おまけ』は、なんか得した気分になるものですから、『あいさつ』にも『おまけ』が付けられないか、と考えてみました。あいさつのおまけ、って何があるか。そうだ、「おはよう、今日も元気だね」「おはよう、今日も朝練ご苦労さん」……。普通のあいさつに何か一言プラス。おまけを付ける。子どもはどんな気分になるのだろう。得したとは思わないだろうけれど、ちょっとでもいい気分になってくれればいいな、『おまけ』が人間関係の潤滑油、それも滑りのいい油になればいいな、と思います。

ご家庭でも、『おまけ』を付けてみてはどうでしょう。すぐには効果が出ない『おまけ』でも、振り返ったとき、すごい『おまけ』になっているかも知れません。

読んだ書籍から

今の子どもに昔の子どもにまつわる常識は通用しない。こんな調子で始まる『合格力』（三浦 展 著）。例えば、昔であれば、勉強ができない子、しない子は、外遊びをするからスポーツができたり、友達のとコミュニケーション能力が高いと信じられていた。しかし、携帯ゲームの時代になると、勉強をしない子が外遊びもしないで、家にこもりきりになるから、体力も落ち、コミュニケーション能力が低いというのが当たり前になってきた。このような子どもの実態を膨大なアンケート調査をもとに実証したのがこの本です。この中で、成績のよい子の方が明るく、がんばり屋で、スポーツ好き。成績の悪い子は、消極的で、だらしく、友達が少ないという。要するに親が手をかけた子は、勉強ができるだけでなく、スポーツもできるし、人間関係もよい。そうでない子は逆だという。ある意味戦慄な内容です。著者は、このままだと格差が遺伝するとも述べています。

→すべて鵜呑みにはできませんが、ある意味で警鐘を鳴らしている点では読むのに値する本かなと思いました。

次に、学力や体力の問題と並んで、教育上で話題になるのが「いじめ」です。決してあつてはならないことですが、昨年も大津市のいじめから自殺に至った件で取り上げられたので記憶に新しいと思います。『いじめの構造』（森口 朗 著）では、いじめという言葉でひとくくりにされる様々な状況を、いくつかの研究を引用して、タイプ分けをしています。この中で、子どもの今を知る上での最も重要なキーワードは、「スクール・カースト」なる考えであると述べています。競争否定社会の中で、クラスでのステータスは、コミュニケーション能力で決まるようになってきたとし、友達の多い人がステータスが上、少ない人、仲間はずれにされる人がクラスでは下に見られると述べています。そして、上位から「一軍、二軍、三軍」などと呼ばれ、二軍の人たちは、人気者の一軍にくつつきながら、三軍に落とされないようにクラスの多数派に合わせようと淡々としているという。勉強ができること、スポーツができることより、クラスの「みんな」に嫌われないことがメインテーマであり、病理は重いとも思います。

→これも内容をすべて鵜呑みにはできませんが、「スクール・カースト」に興味を引かれます。

「教室内（スクール）カースト」については、日本テレビで毎週土曜日に（21:00～21:54）放映されている米倉涼子さん主演の『35歳の高校生』をみるとよくわかります。その都度クラスの抱える問題を取り上げる一話完結型のドラマですが、底流を流れる「スクール・カースト」とはどんなものかがわかります。